



千葉県立博物館

博物館に
行ってみよう!

もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館

第5回

いすみ市郷土資料館 (いすみ市)

インタビュー

“中の人”に
聞いてみました

「狩野派のふるさと夷隅」 の資料館として開設

いすみ市郷土資料館は、1991年に夷隅町郷土資料館として開館しました。夷隅町は、室町時代から明治初期まで約400年続いた日本画壇の一大流派、狩野派の始祖狩野正信の出身地と考えられており、開館当初から「狩野派のふるさと夷隅」として古画や郷土資料の収集・展示を行い「田園の美術館」との愛称で親しまれてきました。市町村合併により2005年からは、いすみ市郷土資料館となり、旧大原町・旧岬町を含めた広い地域の歴史や文化に関する資料の収集と紹介に努めています。

いすみ市郷土資料館では現在、常設展示は行っておらず、数カ月ごとに全ての展示を入れ替え、年間を通し4回程度の企画展を行う形で展示しています。狩野派の作品に関する企画や、この地域に縁が深い「波の伊八」の企画が人気ですが、市内の寺社仏閣のご協力をいただいで行なう文化財の展示も毎回好評です。特に仏像の展示企画は注目度が高く、県外からも多くの仏像ファンの方にお越しいただいております。

この企画を毎回考え、作品や展示物の手配を行うことが私の大切な仕事ですが、特に市内、あるいは県内(時に県外も)のどこにお目当てのものがあるのかをしっかりと把握しておくことも重要な仕事です。

いすみ市には、古くから栄えた古刹や歴史的建造物、仏像や彫刻、古文書や絵画などの、本当に貴重な文化財が数多く存在しています。こうした恵まれた環境の中であって、多くの方々に関心を持っていただき、いすみ市の素晴らしい歴史や文化に触れていただくためには何を展示すればよいのか、毎回考えを巡らせています。



いすみ市郷土資料館
学芸員 嶺島 英寿さん



▲数カ月ごとに館内の展示が全て入れ替わり、その時のテーマに沿って展示される品々が替わるので、その都度新たな発見ができます。

いすみ市郷土資料館とは？

「田園の美術館」として親しまれている、いすみ市郷土資料館が開館したのは1991年。開館当初は「狩野派のふるさと夷隅」として注目されましたが、現在はさらにその役割を広げ、いすみ市全体の文化と歴史の郷土資料の集積地としての役割を果たしています。

現在市内には、国の重要文化財4件、県指定文化財21件にいすみ



市の指定文化財を加えた224件(2024年現在)の文化財が存在していますが、その貴重な歴史遺産を機会あるごとに間近に見ることのできる貴重な場所です。

「波の伊八」とは？

「波の伊八」こと、たけし いはちろう のぶよし武志伊八郎信由は、現在の鴨川市で生まれ、江戸時代後期、主に房総南部の神社や寺院のらんま欄間彫刻などに優れた作品を残した宮彫師です。特に、外房の荒波を象徴するかのようなダイナミックな「波」の浮き彫りが独特の作風とされ、「波の伊八」の異名で知られるようになりました。

▲初代伊八作、欄間彫刻「鯉」

年間を通しさまざまな企画展を実施 幅広い分野の美術工芸品を紹介

いすみ市郷土資料館では、農業の変遷を資料やパネル等で解説する他、年間を通して4回程度企画展を開催し、幅広い分野の美術工芸品を紹介しています。

例えば近年、「法興寺の仏像」「房総の縄文土器」「万祝と大漁絵馬」「静遠房総風景画展」など地域の歴史と文化を語るうえで欠かせない、多くの品々をテーマとした企画展が開催され話題となりました。

市内には奈良時代の寺社址、平安時代の仏像、室町時代の絵巻物をはじめ多くの文化財が伝来しました。また江戸時代には、宮彫師「波の伊八」こと武志伊八郎の活躍の舞台ともなり、社寺の建物や神輿に数々の作品を残しています。いすみ市郷土資料館にも波の伊八による神輿が展示され、この見事な作品を間近に見るために市内はもちろん県内、県外から多くの方が足を運んでいます。



▲(左)石版画「九段靖国神社前大村氏銅像之図」、(右)木版画「東京名所九段坂靖国神社真図」。石版画と木版画で材質の違いはありますが、どちらもとてもカラフルな色彩で、華やいだ雰囲気を出しています。



▲取材時開催されていたのは「博覧図展」。博覧図とは明治時代の中頃、精行社が十数編の画集として刊行した銅版画集です。銅版画とは思えないほど精細に描かれています。精行社銅版画には、博覧図の他に名所や神社仏閣などを描いた一枚絵の銅版画も存在しています。



▲「天正18年の万喜城」。館内にはこのようなジオラマもあり、とても精密にできています。



▲万祝とは漁業に関する慶事を祝うときに作られる着物。いすみの沿岸部は漁業が盛んだったことから万祝の文化が発達したと言われていました。展示されている万祝は非常に状態が良く、その色彩の鮮やかさまで鑑賞することができます。

初代伊八作 熊野神社神輿彫刻

神輿正面の戸脇ほか4面に初代伊八の彫刻が施されています。このことは、神輿と一緒に熊野神社に保存されている棟札の裏面に「彫工 房州長狭 武志伊八郎」と書かれていて、伊八の作であることがわかります。

●問い合わせ／いすみ市郷土資料館
いすみ市弥正93-1 TEL.0470-86-3708

すごい!このホンモノを見逃すな!

狩野派の数々の作品を所蔵・展示

これ見て!



▶紙本水墨著色軸装花鳥図



いすみ市は、日本絵画史上最大の画系である狩野派のふるさととの説があります。

室町時代、伊豆から出た狩野氏がいすみの地域に進出。その後、室町幕府～信長～秀吉～江戸幕府の御用絵師として繁栄した狩野派の祖である狩野正信がこの狩野氏から出たという説です。その絵師集団狩野派の歴史は約400年にもおよび、金色を使った壮大で豪華絢爛な作品が特に有名で、武家を中心に高い支持を得ていました。

いすみ市郷土資料館が夷隅町郷土資料館として設立された際にも、狩野派のふるさととして狩野派の古画や郷土資料の収集・

展示が積極的に行われました。狩野派中心の日本画40点程度を所蔵していて、「波の伊八」とともに、この資料館で常に人気を集める存在となっています。

紙本水墨著色軸装花鳥図の画面は縦50cm、横33.5cmの双幅(左右一对に仕立てられた書画の掛け物)で、室町時代後期の作品と言われています。作者の狩野元信は狩野正信の子で、正信の社会的地位と画風を受け継ぎ、武家好みの力強い装飾性を持った様式に変化させました。

2026年1月から企画展「狩野派絵画展」を開催予定です。(詳細未定)

イベントに行ってみよう!

こんなイベントも開催されています

いすみ郷土資料館では、いすみ市の歴史や文化について学ぶことができる歴史教室を年に2～4回開催しています。どなたでも参加可能です。とても人気のイベントで、定員がすぐに埋まってしまうほど。ご興味のある方はぜひご参加を。

2024年度歴史教室のテーマは「博覧図にみる明治期の千葉県 ー精社社の銅版画についてー」と「博覧図にみる明治期の千葉県 ーいすみ地域を中心にー」。企画展「博覧図展」に合わせた教室が開催されました。



多くの市民の皆さんが参加された「古文書講座」の様子です。



資料館の外でのフィールドワークも行われます。写真は「いすみ市域の自由民権運動史跡の見学」の様子です。

「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」今月の誌上クイズ

※答えは、京葉銀行のホームページにある、「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」の第5回をご覧ください。



今回誌面でご紹介した、江戸時代後期に主に房総南部で多くの優れた作品を残した、ダイナミックな浮き彫りで有名な宮彫師は誰でしょうか。

次の3つの中から正解を1つ選んでください。

- ① 鳥の狩野
- ② 波の伊八
- ③ 山の正信

取材協力・撮影協力・写真提供/いすみ市郷土資料館

プラスαで、未来をともし。

京葉銀行

ホームページでもご覧いただけます。

京葉銀行 情報誌

検索

LINE、Xからも「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」を配信しています。

LINE 公式アカウント

@keiyobk_official



X 公式アカウント

@keiyobkofficial



2025.5
(次回発行予定/
2025年6月20日)

正解は→② 波の伊八